



横川活性化へ サポーターズ

担い手育成目指し叡啓大生ら始動

8日「フェス」異文化交流企画

広島市西区横川地区の住民や学生・生徒でつくる「よこがわ次世代共創サポーターズ」が、今春から本格始動している。8月8日の「よこがわ・川・夏フェス」(通称ガワフェス、横川カンパニー王国主催)では、異文化交流を楽しめる流しそめんを計画中で、にぎわいづくりに一役買う。(菊池諒)

サポーターズは行事の企画や運営を通してリーダーを育てる取り組み。昨年12月に発足し、叡啓大(中区)の7人を含む20人以上が活動する。

ガワフェスでは、横川胡子神社を会場に、多様な国々の味付けのつけ汁を用意し、「世界一周流しそめんの旅」を企画した。このほど、西区山手町で長さ約6メートルの竹を切り出し、集会所で半分に割って節を取った。同大2年荏原礼奈さん(19)

は「外国の方との食事を通じて、互いの文化を理解するきっかけにした

い」と意気込む。

サポーターズ事務局によると、横川地区は行事が盛んな一方、担い手不足が懸念されている。にぎわいをつなぐためにも、若者の挑戦を後押しする仕組みを整えた。

サポーターズは4月の横川ふしぎ市でも、チョークを使って道路に絵を描くワークショップを開催。同大2年の安武大地さん(20)は「地域の皆さんと汗をかき、イベントを作ること是一生の財産」。ガワフェスのポスターデザインも担った。

ガワフェスは午後0時半～8時。西区横川町の本川、天満川沿いである。屋台やステージ発表、スタンドアップパドルボート(SUP)体験会もある。

流しそめんで使う竹を切るサポーターズの大学生たち